

ぶどう膜炎の新たな原因ウイルスの世界初の確認について

1. 概要

眼の失明につながる可能性がある「ぶどう膜炎^{※1}」の原因ウイルスとしては、そのほとんどがヘルペスウイルス科によるものと考えられてきました。このたび、新たな原因ウイルスとしてヒトアデノウイルスが2例の重篤なぶどう膜炎患者の眼内から確認されました。今回の発見により新しい疾患概念の確立と治療開発へ取り組むことが可能となるため、本症例の概要についてお知らせいたします。

※1:「ぶどう膜」とは、眼の中にある「虹彩」「毛様体」「脈絡膜」の3つの組織を併せた名称であり、ぶどう膜の一部あるいは全部に炎症が起こる病気を総称して「ぶどう膜炎」と呼ぶ。感染や免疫異常により引き起こされる疾患で、視力低下や眼痛などの症状があり、抗菌薬や抗炎症薬での治療が基本とされている。

2. 発表者・共同研究者

北市 伸義 北海道医療大学病院（札幌市） 病院長

杉田 直 神戸市立神戸アイセンター病院（神戸市） 医師

臼井 嘉彦 東京医科大学臨床医学系眼科学分野（東京都） 准教授

渡邊 日出海 北海道大学情報科学研究院バイオインフォマティクス分野（札幌市） 教授

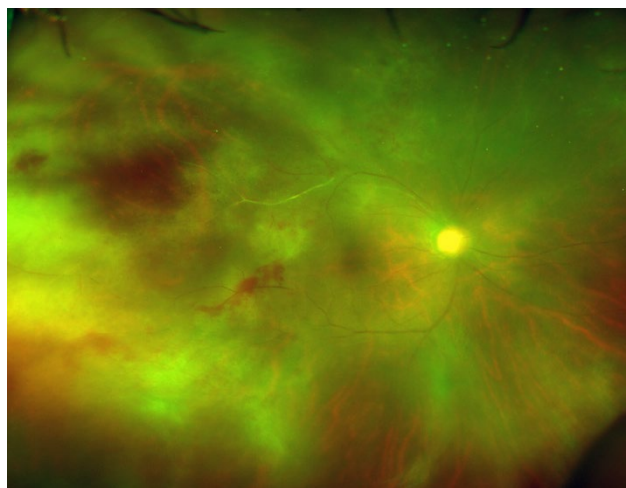
3. 内容

「ぶどう膜炎」は、視力低下や失明の原因となり、患者の不可逆的 QOV (Quality of Vision: 視覚の質) 低下をもたらす疾患です。ぶどう膜炎の原因としていくつかの病原体や疾患が知られていますが、ほとんどがヘルペスウイルス科によるものと考えられてきました。

今回、ヒトアデノウイルス感染によると考えられる重篤なぶどう膜炎の症例 2 件を世界で初めて報告します。いずれも眼内液から PCR 検査でヒトアデノウイルス DNA が検出され、ウイルスゲノム解析から症例 1 は臨床報告が稀な C 種 6 型、症例 2 はこれまで臨床報告がない D 種新型によると判明しました。

ぶどう膜炎全体のうちの約 4 割が原因不明とされていますが、アデノウイルス感染によるものが含まれていた可能性があります。この 2 件の症例におけるアデノウイルスの感染経路や網膜炎発症機序は未解明ですが、今回の発見は、適切な治療法の選択や網膜壊死を伴うぶどう膜炎の理解への貢献が期待されます。

本研究成果は 2023 年 2 月 2 日、アメリカ眼科学アカデミー機関誌「Ophthalmology」に掲載されました



写真：症例 1 の眼底所見

網膜出血と網膜炎（黄白色の病巣が網膜壊死）が眼底全体に広がる重篤なぶどう膜炎
視力は 0.1